

2. 指標設定

成果指標	指標名	観光入込客数		H27	指標の設定理由			
	数値	2,094,000人			豊後大野市外からの観光入込客数を増加させることを指標とし、数値設定は平成20年度時点の道の駅のレジ客数の2.5倍とした			
活動指標	指標	a	施設宿泊者数	b	c	d		
	数値	目標	7,550人	目標	目標	目標		

3. 実績（上段・実績／下段・達成率）

成果指標名	単位	H20	H21	H22
観光入込客数	人	1,675,000	1,724,000	1,880,000
	%	80.0	82.3	80.2

活動指標名	単位	H20	H21	H22
a 施設宿泊者数	人	5,837 件	6,263 件	6,774 件
		77.3 %	83.0 %	89.7 %
b				
c				
d				

4. 課題と対応

課題
施設が多いことにより財政的負担が多くなっている
対応（改善点等）
施設を抜本的に見直していく

5. 事業費・・・H20～H22（決算額）、H23（予算現額）

決算額（千円）		H20	H21	H22	H23
		72,953	117,080	79,723	67,620
うち経常経費		67,017	60,330	59,517	62,581
財源内訳	国費	4,725	53,500	15,100	
	県費	312	312	312	312
	市債				
	その他	11,184	10,543	7,867	7,625
	一般財源	56,732	52,725	56,444	59,683
うち経常		55,521	49,475	51,338	54,644
事業費に係る人件費		16,980	15,786	15,417	16,426

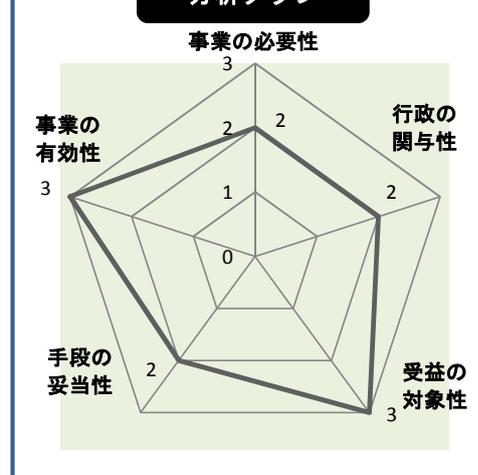
6. H24年度予算の方向性

方向性
減額
理由
施設を抜本的に見直していくため

7. 担当課による分析

着眼点	分析	分析根拠
① 事業の必要性	必要性の再確認	2 一部施設の見直しが必要である
② 行政の関与性	責任領域の精査	2 施設の地元や民間への譲渡を検討する
③ 受益の対象性	事業対象の確認	3 市や市民にとって有効であるため
④ 手段の妥当性	活動指標の分析	2 目標達成のために適切な手段であるが、検討の余地がある
⑤ 事業の有効性	成果指標の判断	3 期待したとおりの成果が上がっている

分析グラフ



8. 内部評価委員会評価（委員会評価）

事業の方向性	評価内容
見直し	公共施設の見直し方針に則ること